



# 令和6年度 府中市立府中第七中学校 学校経営報告

府中市立府中第七中学校  
校長 菅原 尚志

本校では、府中市教育委員会の示す、これからの時代を生きていく児童・生徒に特に重視して育成を目指す資質・能力等を踏まえ、令和6年度の教育目標及び学校経営計画を、次のとおり設定し、教育活動を行ってきました。今年度はインフルエンザ等が全国的に流行しましたが、本校では学年・学級閉鎖等の対応もなく、予定していた教育活動を全て終えることができました。

今年度は、校区の府中第七小学校、武蔵台小学校と連携した取組や、地域との交流活動、府中市の進めるデフリンピック選手による学校訪問事業など、生徒にとって様々な教育機会をつくることができました。令和6年度の学校経営について、学校評価アンケート等を基に、重点目標と方策の成果と課題などを分析し、次年度の学校経営の改善を進め、教育活動の一層の充実に努めてまいります。

＜義務教育9年間の系統的・継続的な取組により、特に重視して育成を目指す資質・能力＞

課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに  
他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力

きづく

つなげる

たかめる

＜本市の教育活動において特に重視する視点＞

## ○発見すること

（意欲・好奇心・課題発見力等）  
児童・生徒が、主体的に目標や課題を発見し、課題解決や自己実現に向けて見通しをもって、自主的・実践的に学ぶことができるようにする

## ○対話すること

（コミュニケーション力・多様性等）  
児童・生徒が、多様な価値観を認め、考えを相互に伝え合い、合意形成を図ったり問題解決を図ったりできるようにする

## ○決定すること

（自己調整力・批判的思考力等）  
児童・生徒が、課題解決や自己実現に向けて、集団や自己の状況を把握しながら調整し、方法・目的・結果等を決定できるようにする

## ○表現すること

（実行力・表現力・責任感等）  
児童・生徒が、よりよい自己・集団・社会の実現に向けて、言葉や行動で表現できるようにする

＜本校の教育目標＞

## ◎自分で考える生徒

（進んで学び、学んだことを基に自ら考え協働して課題に取り組む生徒：「課題発見・解決能力」）

## ○思いやりのある生徒

（優しい心をもち、自分も他人も大切にできる生徒：「人間関係形成・社会形成能力」）

## ○強い意志をもつ生徒

（社会に貢献しようとする強い意志をもつ生徒：「自己理解・自己管理能力」）

## 1 目指す学校像等

### （1）目指す学校像

生徒が「府中七中の生徒でよかった」、保護者が「府中七中に通わせてよかった」、地域の方が「府中七中は地域の誇りだ」、教職員が「府中七中で働けてよかった」と実感できる学校を目指す。

#### ①「学ぶ喜び」が実感できる学校

「わかった！」「できた！」「たのしい！」と生徒が感じ、生涯にわたって学び続けようという意欲にあふれる生徒を育てる。

#### ②「ふれあう喜び」が実感できる学校

生徒同士、生徒と教師、さらには保護者や地域の人たちとの人間関係を深め、多様性を認め合いながら心豊かな生徒を育てる。

### ③「生きる喜び」が実感できる学校

一人一人の生徒が認められ、活躍し、将来の夢や希望をもち、よりよく生きる活力のある生徒を育てる。

## (2) 目指す生徒像

- ①進んで学び、学んだことを基に自ら考え協働して課題に取り組む生徒
- ②優しい心をもち、自分も他人も大切にする生徒
- ③社会に貢献しようとする強い意志をもつ生徒

## (3) 目指す教師像

- ①生徒の学びを支援でき、授業改善を積極的に進める専門性の高い教師
- ②生徒・保護者・地域の願いに寄り添える協調性ある教師
- ③生徒を認め励まし、一人一人の望ましい自己実現に向けて支援できる教師
- ④教育公務員としての自覚をもち、組織の一員として職務を遂行する教師

## 2 重点目標と方策の成果と課題

### 1 わかる喜び、できる喜び、学び続けることへの意欲を高めるために授業を工夫し、学力の向上を図る。

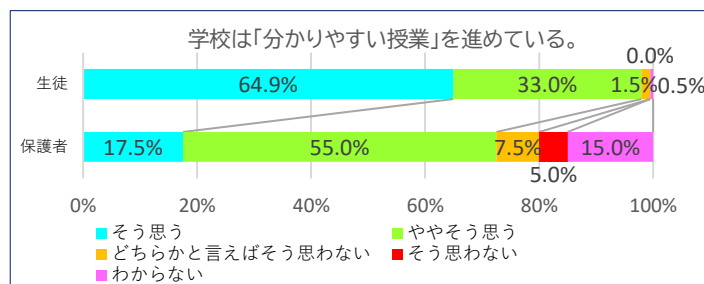
〔重点目標〕

「わかった」「できた」「たのしい」が実感できる授業

#### (1) 「ねらい」の明示と、学習の見通しをもたせた「分かりやすい授業」の推進

「分かりやすい授業」について、生徒・保護者を対象に実施した学校評価アンケートでは、生徒の肯定的な回答の割合は 97.9%で、保護者の肯定的な回答の割合は 72.5%であった。

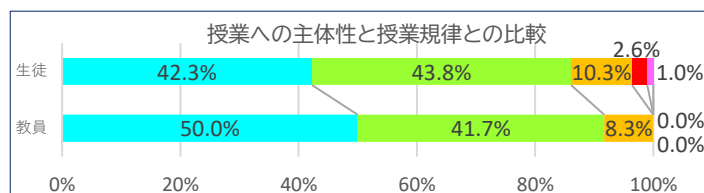
この結果からおおむね達成できていると考えられるが、25.4 ポイントの差があることから、引き続き、生徒にとって分かりやすい授業を進めるとともに、生徒・保護者が授業の成果を実感できるようにする必要がある。



#### (2) 授業規律の確立

「授業規律の確立」に関する教員への意識調査では、肯定的な回答は 91.7%であった。また、「授業に主体的に参加している」についての生徒の肯定的な回答の割合は 86.1%であった。

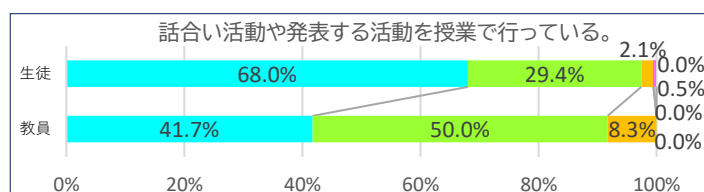
規律のある授業は、生徒に安心感を与え、生徒が授業に集中しやすくなる。一方で生徒が主体的に取り組む授業は、規律があり、安心して受けられる授業とも言える。「授業規律の確立」について、おおむね達成できているが、引き続き、全ての生徒が安心して授業を受けられるよう、規律ある授業にするとともに、生徒が主体的に取り組めるための工夫も大切である。



#### (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

「話し合い活動や発表する活動の取組」について、生徒の肯定的な回答の割合は 97.4%で、教員の肯定的な回答の割合は 91.7%であった。

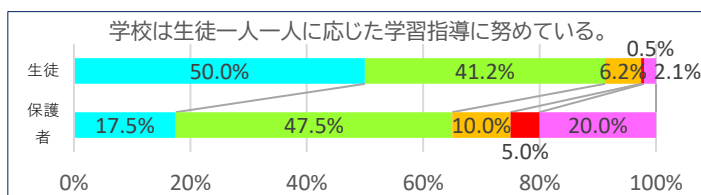
授業においては、生徒、教員等との対話を通じて考えを深めることや、学習した知識技能を活用して、思考・判断・表現させる取組が求められている。知識・技能の定着とともに、引き続き授業のねらいに迫る「対話的な学び」に取り組んでいく。



#### (4) 生徒一人一人に応じた、きめ細やかな学習指導

「生徒一人一人に応じた学習指導」について、生徒の肯定的な回答の割合は 91.2%で、保護者の肯定的な回答の割合は 65.0%であった。

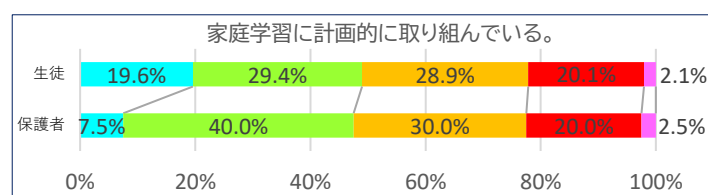
本項目について、生徒と保護者との差があり、保護者の「わからない」と回答した割合は 20.0%という結果となった。学校における個別に課題を設定した探究活動や少人数指導などの様々な取組を発信する必要がある。



#### (5) 学習を習慣づけ、計画的に取り組ませる指導

「家庭学習の計画的な取組」について、生徒の肯定的な回答の割合は 49.0%で、保護者の肯定的な回答の割合は 47.5%で、生徒・保護者間に大きな差はなかった。

本項目に関連する「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強時間」では、「全くしない」と回答した生徒の割合は、3年生 4.6%、2年生 29.9%、1年生 22.6%となっており、学校と家庭とが連携して学習を習慣づける取組が必要である。



## 2 様々な人とのふれあいを通して、自己肯定感を高め、思いやりのある生徒を育成する。

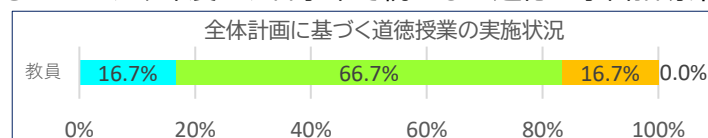
### 〔重点目標〕

人権尊重の理念を基礎とし、温かな人間関係づくりを進める。(学習指導、道徳教育)

#### (1) 全体計画に基づく道徳的実践及び指導の充実

「全体計画に基づく道徳の授業の実施状況」については、教員の肯定的な解答の割合は 93.4%であった。

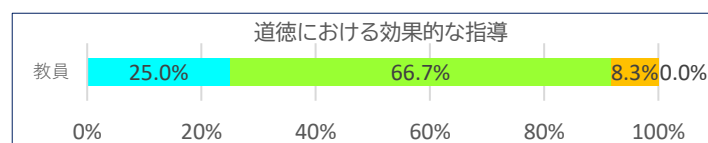
おおむね計画どおりに実施ができていたと考える。また、今年度は、各学年で統一した道徳の学習指導案を作成し、全ての学級で「郷土府中に根ざした道徳資料集」による道徳の授業を実施することができた。



#### (2) 道徳における効果的な指導

「道徳における効果的な指導」について、教員の肯定的な解答の割合は 93.4%であった。

道徳の授業では、教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることが大切である。今年度は、教材ごとにワークシートや、授業の展開を工夫することで、おおむね達成できたと考える。来年度も、登場人物に自分を投影し、その判断や心情を考えさせ、生徒の道徳的価値の理解を深める。



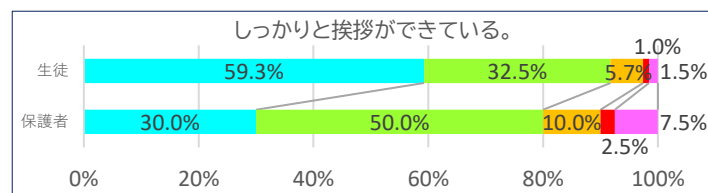
### 〔重点目標〕

生徒一人一人を大切にする。(生活指導、特別支援教育)

#### (1) 教職員が率先しての生徒への声かけや挨拶

「しっかりと挨拶ができている」について、学校評価では、生徒の肯定的な回答の割合は 91.8%で、保護者の肯定的な回答の割合は 80.0%であった。

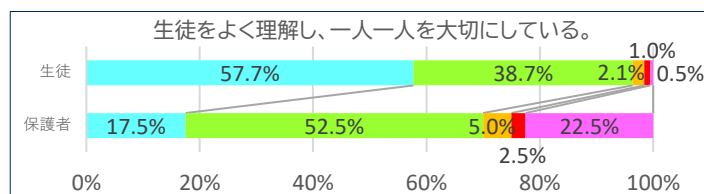
挨拶のできる生徒を育てるため、教職員から率先して生徒に対し、挨拶することを心がけた。挨拶の際に生徒の様子に変化がないかなど気をつけるようにしている。また、日々の挨拶や声かけにより生徒との関係性も生まれており、引き続き、声かけや挨拶を教職員から率先して行うようにする。



## (2) 生徒一人一人を大切にし、子供の些細な変化も見逃さないこと

「生徒をよく理解し、一人一人を大切にしている。」について、生徒の肯定的な回答の割合は 96.4%で、保護者の肯定的な回答の割合は 70.0%であった。

この結果からおおむね達成できていると考えられるが、生徒と保護者とで 26.4 ポイントの差があることから、引き続き、生徒理解に基づいて、一人一人の生徒を大切にしたい指導を行っていく。また、学習指導だけでなく、生活指導に関する取組についても保護者に対し、周知していくことが必要である。



## (3) いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決の取組

令和 5 年の「府中市いじめ防止対策推進条例」の策定及び「府中市いじめ防止基本方針」の改訂を踏まえ、本校の「学校いじめ防止基本方針」を見直した。年度途中の改訂になったため、教職員の共通理解を図るとともに、生徒・保護者に対し、本方針内容や学校におけるいじめ防止のための取組を発信していく必要がある。また、早期発見の取組として、タブレット端末を活用した「心の天気予報」を 10 月から毎月（ふれあいアンケート実施月を除く。）実施した。この取組から教員や S C などへの相談につながるケースもあった。継続の相談を必要とするケースではなかったが、生徒にとって学校が悩み事や困っていることを話すことのできる場所として捉えてもらえる機会にもなり、様々な成果があったと考えている。次年度も本取組を継続するとともに、日頃からの生徒への声がけや観察等を丁寧に行い、子供の変化の早期の把握に努めていく。

| 心の天気予報から相談につながった件数 |      |      |      |     |    |
|--------------------|------|------|------|-----|----|
| 相談相手               | 学級担任 | 担任以外 | 養護教諭 | S C | 計  |
| 件数                 | 6    | 2    | 6    | 13  | 27 |

## (4) サポートルームの効果的な活用

様々な理由から教室に入りづらさを感じている生徒を対象にしたサポートルームについて、今年度はサポートルーム支援員を中心に、空き時間の教員や非常勤教員で体制を作ること、常時開設することができた。また、教室に入りづらくなった生徒で一時的に利用から教室へ復帰する生徒や、教室復帰まではいかなものの学校行事等、本人の参加しやすい場面で参加することができた生徒もいた。けやき教室等、学校外の関係機関と併用している生徒もあり、不登校の生徒にとって、サポートルームは多様な支援の一つとして機能したと考える。

来年度も常時開設の体制を維持するとともに、サポートルームでの取組の充実や環境の充実を図り、より子供たちが利用しやすい環境を作りたい。

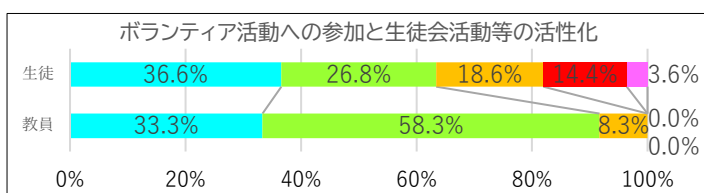
## 3 生きる喜びを感じ、夢や希望を抱いて自信をもって卒業できる生徒を育成する。

### 〔重点目標〕

#### 一人一人が活躍できる場の設定(特別活動)

### (1) 生徒会企画のボランティア活動等、生徒主体による生徒会活動等の充実

生徒会が中心となって、異学年の参加者がゲームを通じて交流を深めるオリエンテーション「セオリ」、地域清掃や掲示物等を作成するボランティア活動「ちょこボラ」などを行った。また、隣接する文化センターを会場に実施する文化センターまつりなど、地域行事に関わるボランティア活動など多くの取組があった。生徒主体の取組を進め、生徒会活動等の活性化を図ったことについて、教員の肯定的な回答 91.6%で高く、実際多くの教員がボランティア活動や地域行事に協力している。一方で、取組に対する生徒の参加意識について、肯定的な回答は 63.4%であった。



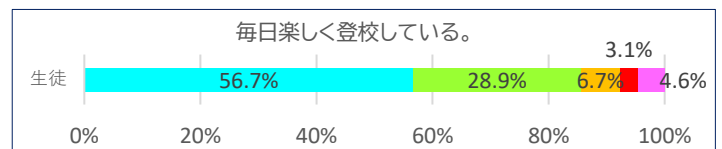
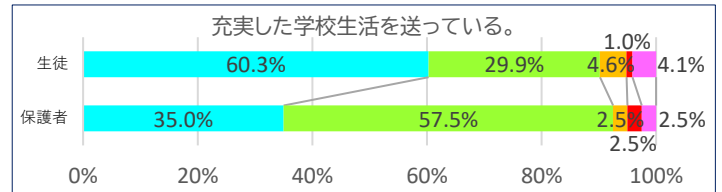


部活動や習い事などと重なり参加できない生徒も多いと考えるが、中には参加することに対して躊躇している生徒も多いと考える。参加した生徒の声を聞くと、最初は不安だったけれど楽しかったり、やりがいを感じたりしている生徒もあり、参加した生徒の感想を積極的に発信するなど、生徒の自主性を促したい。

## (2) よりよい人間関係を築こうとするなどの自主的、実践的な態度の育成及び所属感・連帯感の涵養

「充実した学校生活」について、生徒の肯定的な回答の割合は 90.2%で、保護者の肯定的な回答の割合は 92.5%であった。また「毎日楽しく登校」について、生徒の肯定的な回答の割合は 85.6%であった。

生徒・保護者共に高い結果であったが、「充実した学校生活」については、生徒の 9.7%が否定的な回答又は分からないと回答し、「毎日楽しく登校」については、14.4%が否定的な回答又は分からないと回答している。次年度以降も、生徒一人一人が中学校生活において所属感や連帯感、授業に対する満足感などがもてるよう、引き続き、授業や学校行事、生徒会活動などの充実を図る必要がある。



## 4 その他

### 〔重点目標〕

#### 小・中連携の推進

今年度は、教員による小・中連携の取組では、部会の再編成し、教科・領域を明確にすることで充実した内容となった。また、児童・生徒の取組では、挨拶運動、陸上教室などの小学校と連携した取組を実施し、内容の充実も図ることできた。また、吹奏楽部の校内コンサートでは、小学生等を招待するなど、中学校の教育活動を生かした取組により連携の充実を図ることもできた。

次年度、教員の小・中連携の取組では、領域の部会についてテーマを検討し、校区の教育課題の改善に資する内容としたい。また、児童・生徒の取組では、生徒会等を中心に生徒を主体とした活動を計画し、生徒の自主性を育むとともに、児童の中学校に対する理解を図りたい。

#### 「ふるさと府中」に誇りをもてる生徒の育成

市制施行 70 周年を契機とした取組として武蔵台文化センターのロビーを借り「七夕まつり」を、生徒会が主体となって小学校 2 校、文化センター、地域と連携して実施できた。また、中学校第 1 学年での府中について調べる取組や、各学年で「郷土府中に根ざした道徳資料集」を使用した道徳の授業を実施するなど、生徒が「ふるさと府中」について考える様々な機会をつくることのできたと考える。

今年度の取組を単発で終わらず、次年度の取組の中で、今年度の成果を基に「ふるさと府中」に誇りをもたせる取組を継続させることが大切である。

#### 保護者・地域との連携の推進

「保護者・地域との連携」について、保護者の肯定的な回答の割合は 82.5%であった。また、教員の肯定的な回答の割合は 83.4%であった。

教員については、部活動の関係で生徒と共に参加することや、夏祭りや地域パトロールなどに協力している教員も多くいる。七中校区は、地域の行事（ボランティア活動を含む。）が盛んであり、本校を会場とした取組や文化センター等の取組も年間を通じてあることから、引き続き、学校として協力し、生徒が活躍する機会を作っていく。

